

働くことプロジェクト

2年 生活科 「とび出せ！町たんけんたい」

◎授業について

働くことPTの目指すことも像は、①「学校」から「社会」への接続をスムーズに ②「働くこと」に対して明るいイメージを ③「働くこと」によって人生を豊かに の3点です。低学年では、相手のために働くことで、相手がよろこび、その姿を見て自分も嬉しくなる。そんな、働くことの素晴らしさを体感させたいと考え、本時の授業を行いました。



【導入(めあて・流れの確認)】『はたらく人のくふうやすてきなところをほかのグループにつたえよう』というめあてを掲示し、活動の際にはお店の人やお客さんになりきって相手に分かりやすく伝えることの大切さや働く人の工夫や素敵などを見つけるために探検することを確認しました。

発表の仕方については、新聞やスライドにまとめて、説明する形式がよく使われていますが、分かったことや資料を写して、それを読むだけの活動になりがちです。そこで、自分たちで疑似的な町探検を行う体験的な活動を行いました。実際に、お店で働く人になって、接客をしたり、質問に答えるには、お店のことをしっかり理解していなければなりません。この活動を通して、より「働くこと」への理解を深めることができたと考えます。

【展開】働く人役と探検隊に分かれ、働く人はお店の良いところ、工夫などを伝えたり探検隊の質問に答えたりします。探検隊はお店の人に質問したり、話を聞いたりして働く人の素敵などところや工夫を見つけます。お店にはPOPや看板、野菜、から揚げなど子どもたちのこだわりが詰まった様々な小道具があり、それぞれの役割になりきって楽しく活動することができました。回数を重ねるうちに、より相手に伝わるように話し方を変えている姿も見られ、その時間の中でも成長を感じることができました。

【振り返り】実際にやってみた活動を踏まえて、それぞれの店でつけたすてきなところをワークシートに記入し、たくさん発表することができました。

☆指導・講評



○お店屋さん側の役割に夢中になってしまう場合が多いが、それぞれの店の良さもきちんと記述できていた。

インタビューだけでなく、実際にお店を見学し、働いている姿を見せたり、買い物をする姿を見せたりすることでお店の良さに目を向けることができた。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮した活動が生活科である。教科の特性を活かして、児童に力をつけていた。

▲児童が今日のめあてを立て振り返っていく活動を取り入れるのはどうか。(自己調整)